



Cisco Cloud Network Controller のクラウド形成テンプレート情報の構成

- [AWS での Cisco Cloud Network Controller の展開](#) (1 ページ)
- [ユーザテナントの AWS アカウントのセットアップ](#) (7 ページ)

AWS での Cisco Cloud Network Controller の展開

始める前に

- このセクションのタスクに進む前に、[Cisco ACI ファブリックをパブリッククラウドに拡張するための要件](#)に示されている要件を満たしていることを確認します。たとえば、エラスティック IP アドレスの数が正しいこと、およびインスタンス展開の許可の制限をチェックしたことを確認します。
- Cisco Cloud Network Controller のインストールと操作には、特定の AWS IAM ロールおよび権限が必要であるため、AWS で完全な管理者アクセス権を持っていることを確認します。

CloudFormation テンプレート (CFT) を使用して Cisco Cloud Network Controller をインストールする場合は、AWS に完全な管理者アクセス権を持つユーザー (たとえば、権限ポリシー ARN `arn:aws:iam::aws:policy/AdministratorAccess` が、直接、ロールポリシーにより、またはユーザーグループによりアタッチされているユーザー) によってインストールすることを推奨します。ただし、使用可能な AWS 管理者アクセス権を持つユーザーがない場合は、Cisco Cloud Network Controller をインストールするユーザーに最低限の権限セットが必要です。これらの AWS IAM ロールと権限の詳細については、[AWS の IAM ロールと権限](#) を参照してください。

- AWS 組織を使用してさまざまなアカウントのアクセスポリシーと権限を制御し、Cisco Cloud Network Controller を使用して様々なアカウントを行う場合は、これらの手順で Cisco Cloud Network Controller を展開する AWS アカウント (Cisco Cloud Network Controller インフラテナント) が、その AWS 組織のマスターアカウントであることを確認します。Cisco Cloud Network Controller が AWS 組織のマスターアカウントに展開されている場合は、Cisco Cloud Network Controller GUI を使用して、組織の一部である任意の AWS アカウントをデ

ナントとして追加できます。詳細については、「[AWS Organizations と組織のユーザテナントのサポート](#)」と「[共有テナントの設定](#)」を参照してください。

- Cisco Cloud Network Controller を AWS GovCloud に展開する場合は、[Cisco ACI ファブリックをパブリッククラウドに拡張する](#) の「AWS GovCloud のサポート」のセクションに記載されている情報を参照して、それらの展開に固有の情報を確認してください

-
- ステップ 1** まだログインしていない場合は、Cisco Cloud Network Controller インフラテナントの Amazon Web Services アカウントにログインし、AWS 管理コンソールに移動します。
- <https://signin.aws.amazon.com/>
<https://console.aws.amazon.com/>
- ステップ 2** [AWS 管理コンソール (AWS Management Console)] 画面の右上隅で、リージョンが表示されている領域を見つけ、Cisco Cloud Network Controller で管理する AWS のリージョン (Cisco Cloud Network Controller AMI イメージが起動するリージョン) を選択します。
- ステップ 3** Amazon EC2 SSH キーペアを作成します。
- a) 画面の左上の領域にある [サービス (Services)] リンクをクリックし、[EC2] リンクをクリックします。
[EC2 ダッシュボード (EC2 Dashboard)] 画面が表示されます。
 - b) [EC2 ダッシュボード (EC2 Dashboard)] 画面で、[キー ペア (Key Pair)] リンクをクリックします。
[キー ペアの作成 (Create Key Pair)] 画面が表示されます。
 - c) [キー ペアの作成 (Create Key Pair)] をクリックします。
 - d) このキーペアの一意的な名前 (たとえば CloudNetContollerKeyPair) を入力し、[作成 (Create)] をクリックします。
AWS に保存されている公開キーを示す画面が表示されます。さらに、プライバシー強化メール (PEM) ファイルが、秘密キーとともにシステムにローカルにダウンロードされます。
 - e) 秘密キー PEM ファイルをシステム上の安全な場所に移動し、場所をメモします。
これらの手順の後の部分で、この場所に置かれた秘密キー PEM ファイルに戻ります。
- ステップ 4** AWS Marketplace の Cisco Cloud Network Controller ページに移動します。
- <http://cs.co/capic-aws>
- ステップ 5** [登録 (Subscribe)] をクリックします。
- ステップ 6** エンドユーザライセンス契約 (EULA) を確認して、[契約に同意 (Accept Terms)] ボタンをクリックして同意します。
- ステップ 7** 1分後に、[サブスクリプションが処理されます (Subscription should be processed)] というメッセージが表示されます。[設定を続行 (Continue to Configuration)] ボタンをクリックします。
[このソフトウェアを設定 (Configure this software)] ページが表示されます。
- ステップ 8** 以下のパラメータを選択します。

- **[履行オプション (Fulfillment Option)]** : Cisco Cloud Network Controller クラウド形成テンプレート (デフォルトで選択済み)。
- **[ソフトウェアバージョン (Software Version)]** : Cisco Cloud Network Controller ソフトウェアの適切なバージョンを選択します。
- **[リージョン (Region):]** Cisco Cloud Network Controller が展開されるリージョン。

ステップ 9 **[続行して起動 (Continue to Launch)]** ボタンをクリックします。

[このソフトウェアの起動 (Launch this software)] ページが表示され、設定の概要が表示され、クラウド形成テンプレートを起動できます。

ステップ 10 **[起動 (Launch)]** をクリックして、正しい Amazon S3 テンプレート URL がすでに入力されている状態で、正しいリージョンの CloudFormation サービスに直接移動します。

ステップ 11 画面の下部にある**[次へ (Next)]** をクリックします。

[詳細の指定 (Specify Details)] ページが、**[スタックの作成 (Create stack)]** ページ内に表示されます。

ステップ 12 **[詳細の指定 (Specify Details)]** ページに、以下の情報を入力します。

- **[スタック名 (Stack name)]** : この Cisco Cloud Network Controller 構成の名前を入力します。
- **[ファブリック名 (Fabric name):]** デフォルト値のままにしておくか、ファブリック名を入力します。このエントリは、この Cisco Cloud Network Controller の名前になります。
- **[インフラ VPC プール (Infra VPC Pool):]** VPC (仮想プライベートクラウド) CIDR です。このフィールドには、デフォルト値の 10.10.0.0/24 が、CFT から自動的に入力されます。デフォルト値がオンプレミス ファブリックからのインフラプールと重複している場合は、このフィールドの値を変更します。このエントリは /24 サブネットである必要があります。

(注) 172.17.0.0/16 からのサブネット (たとえば、172.17.10.0/24) をインフラ VPC CIDR として使用しないことをお勧めします。これは、[インフラサブネットとのサブネット競合問題の解決 \(5 ページ\)](#) で説明されているように、Docker ブリッジ IP サブネットとの競合を引き起こす可能性があるためです。
- **[アベイラビリティ ゾーン (Availability Zone):]** スクロールダウンメニューから、Cisco Cloud Network Controller サブネットのアベイラビリティ ゾーンを選択します。

表示されるアベイラビリティ ゾーンのオプションは、[ステップ 2 \(2 ページ\)](#) で選択したリージョンに基づいています。アベイラビリティゾーンをリストから選択します。アベイラビリティゾーンのエントリとして west-1a と us-west-1b と表示されている場合は、たとえば、us-west-1a を選択します。
- **[パスワード/パスワードの確認 (Password/Confirm Password):]** 管理者パスワードを入力し、確認入力します。このエントリは、SSH アクセスを有効にした後に Cisco Cloud Network Controller にログインするために使用するパスワードです。
- **[SSH キーペア (SSH Key Pair):]** [ステップ 3 \(2 ページ\)](#) で作成した SSH キーペアの名前を選択します。

Cisco Cloud Network Controller には、この SSH キー ペアを使用してログインします。

- **[アクセス制御 (Access Control):]** Cisco Cloud Network Controller への接続を許可する外部ネットワークの IP アドレスとサブネットを入力します (たとえば 192.0.2.0/24)。このサブネットからの IP アドレスだけが、Cisco Cloud Network Controller への接続を許可されます。値として 0.0.0.0/0 を入力すると、誰でも Cisco Cloud Network Controller への接続が許可されます。
- **[他のパラメータ : パブリック IP アドレスの割り当て (Other parameters: Assign Public IP address)] :** パブリック IP アドレスを Cisco Cloud Network Controller のアウトオブバンド (OOB) 管理インターフェイスに割り当てるかどうかを選択します。

デフォルトでプライベート IP アドレスは Cisco Cloud Network Controller の管理インターフェイスに割り当てられ、パブリック IP アドレスの割り当てはオプションです。詳細については、*Cisco Cloud Network Controller for AWS User Guide*、リリース 25.0(5) の「Private IP Address Support for Cisco Cloud Network Controller and CCR」のトピックを参照してください。

- **[true] :** パブリック IP アドレスを Cisco Cloud Network Controller のアウトオブバンド (OOB) 管理インターフェイスに割り当てます。
- **[false] :** パブリック IP アドレスを無効にし、プライベート IP アドレスを Cisco Cloud Network Controller のアウトオブバンド (OOB) 管理インターフェイスに割り当てます。

ステップ 13 画面の下部にある **[次へ (Next)]** をクリックします。

[オプション (Option)] ページが、**[スタックの作成 (Create stack)]** ページ内に表示されます。

ステップ 14 **[オプション (Options)]** 画面で、すべてのデフォルト値を受け入れます。

このページには、**[権限: IAM ロール (Permissions : IAM Role)]** 領域があります。IAM ロールは、Amazon Web Services にサービス リクエストを行うための一連の権限を定義する IAM エンティティです。ロールを使用すれば、通常は Amazon Web Services リソースにアクセスできないユーザ、アプリケーション、またはサービスに、アクセスを委任することができます。

Cisco Cloud Network Controller に関しては IAM ロール情報は必要ありませんが、別の理由で IAM ロールを割り当てる場合は、**[IAM ロール (IAM role)]** フィールドで適切なロールを選択します。

ステップ 15 **[次へ (Next)]** をクリックします (画面の下部にある **[オプション (Options)]** 画面)。

[レビュー (Review)] ページが、**[スタックの作成 (Create stack)]** ページ内に表示されます。

ステップ 16 **[レビュー (Review)]** ページのすべての情報が正しいことを確認します。

[レビュー (Review)] ページにエラーが表示された場合は、**[前へ (Previous)]** ボタンをクリックして、誤った情報を含むページに戻ります。

ステップ 17 **[レビュー (Review)]** ページのすべての情報が正しいことを確認したら、**[AWS CloudFormation が IAM リソースをカスタム名で作成することを認める (I acknowledge that AWS CloudFormation might create IAM resources with custom names)]** の隣にあるボックスをオンにします。

ステップ 18 ページ下部にある **[作成 (Create)]** ボタンをクリックします。

[Cloudformation] ページが再び表示され、作成した Cisco Cloud Network Controller テンプレートが [ステータス (Status)] 列に **CREATE_IN_PROGRESS** というテキストとともに表示されます。

システムは、テンプレートに指定された情報を使用して Cisco Cloud Network Controller インスタンスを作成するようになりました。プロセスが完了するのに 5～10 分かかります。作成プロセスの進行状況をモニタするには、Cisco Cloud Network Controller テンプレートの名前の横にあるボックスをオンにし、[イベント (Events)] タブをクリックします。[イベント (Events)] タブの下の [ステータス (Status)] 列には、**CREATE_IN_PROGRESS** というテキストが表示されます。

ステップ 19 CREATE_COMPLETE メッセージが表示されたら、続行する前にインスタンスの準備が整っていることを確認します。

a) 画面の上部にある [サービス (Services)] リンクをクリックし、[EC2] リンクをクリックします。

[EC2 ダッシュボード (EC2 Dashboard)] 画面が表示されます。

b) [EC2 ダッシュボード (EC2 Dashboard)] 画面の [リソース (Resources)] 領域には、実行中のインスタンスの数を示すテキストが表示されます (たとえば、[1 つの実行インスタンス (1 Running Instances)])。この実行中のインスタンスのリンクをクリックします。

[インスタンス (Instances)] 画面が表示されます。

c) 続行する前に、そのインスタンスの準備ができるまで待ちます。

[スタートアップ チェック (Status Checks)] の下で、新しいインスタンスが [初期化 (Initializing)] ステージを経過するのを確認できます。続行する前に、[スタートアップ チェック (Status Checks)] の下で、[2/2 のチェックをパス (Check Passed)] というメッセージが表示されるまで待ちます。

次のタスク

[ユーザテナントの AWS アカウントのセットアップ \(7 ページ\)](#) に移動して、ユーザテナントの AWS アカウントをセットアップします。

インフラサブネットとのサブネット競合問題の解決

状況によっては、Cisco Cloud Network Controller とのサブネットの競合に関する問題が発生することがあります。この問題は、次の条件が満たされた場合に発生する可能性があります。

- Cisco Cloud Network Controller がリリース 25.0(2) で実行されている
- Cisco Cloud Network Controller のインフラ VPC サブネットが 172.17.0.0/16 CIDR 内に構成されている (たとえば、[AWS での Cisco Cloud Network Controller の展開 \(1 ページ\)](#) の手順の一部として [インフラ VPC プール (Infra VPC Pool)] フィールドに 172.17.10.0/24 と入力した場合)。
- Cisco Cloud Network Controller のインフラサブネットで使用している 172.17.0.0/16 CIDR に重複して別のものが構成されている (たとえば、Docker ブリッジの IP サブネットが、Cisco Cloud Network Controller のデフォルトサブネットである 172.17.0.0/16 で構成されている場合)。

この状況では、このサブネットの競合が原因で Cisco Cloud Network Controller が CCR プライベート IP アドレスに到達できない可能性があり、Cisco Cloud Network Controller は影響を受ける CCR に対して SSH 接続障害を発生させます。

root として Cisco Cloud Network Controller にログインし、`route -n` コマンドを入力すれば、競合の可能性があるかどうかを判断できます。

```
[root@ACI-Cloud-Fabric-1 ~]# route -n
```

以下のような出力が表示されることが想定されます。

```
Kernel IP routing table
Destination      Gateway          Genmask         Flags Metric Ref    Use Iface
0.0.0.0          172.17.0.17    0.0.0.0        UG    16     0      0 oobmgmt
169.254.169.0    0.0.0.0        255.255.255.0  U     0     0      0 bond0
169.254.254.0    0.0.0.0        255.255.255.0  U     0     0      0 lxcbr0
172.17.0.0      0.0.0.0        255.255.0.0    U     0     0      0 docker0
172.17.0.12     0.0.0.0        255.255.255.252 U     0     0      0 bond0
172.17.0.16     0.0.0.0        255.255.255.240 U     0     0      0 oobmgmt
```

この出力例では、強調表示されたテキストは、Docker ブリッジが 172.17.0.0/16 で構成されていることを示しています。

これは Cisco Cloud Network Controller のインフラ VPC サブネットに使用した 172.17.0.0/16 CIDR と重複しているため、CCR への接続が失われ、CCR に SSH で接続できないという問題が発生する可能性があります。CCR に ping を実行しようとする、ホストに到達できないというメッセージが表示されます（次の例では、172.17.0.84 が CCR のプライベート IP アドレスです）。

```
[root@ACI-Cloud-Fabric-1 ~]# ping 172.17.0.84
PING 172.17.0.84 (172.17.0.84) 56(84) bytes of data.
From 172.17.0.1 icmp_seq=1 Destination Host Unreachable
From 172.17.0.1 icmp_seq=2 Destination Host Unreachable
From 172.17.0.1 icmp_seq=3 Destination Host Unreachable
From 172.17.0.1 icmp_seq=5 Destination Host Unreachable
From 172.17.0.1 icmp_seq=6 Destination Host Unreachable
^C
--- 172.17.0.84 ping statistics ---
9 packets transmitted, 0 received, +5 errors, 100% packet loss, time 8225ms
pipe 4
[root@ACI-Cloud-Fabric-1 ~]#
```

この状況で競合を解決するには、次のような REST API 投稿を入力して、競合の原因となっている他の領域の IP アドレスを変更します。

```
https://{{apic}}/api/plgnhandler/mo/.xml
<apPluginPolContr>
  <apContainerPol containerBip="<new-IP-address>" />
</apPluginPolContr>
```

たとえば、上記のシナリオ例で示した 172.17.0.0/16 CIDR の下から Docker ブリッジの IP アドレスを移動するには、次のような REST API 投稿を入力します。

```
https://{{apic}}/api/plgnhandler/mo/.xml
<apPluginPolContr>
```

```
<apContainerPol containerBip="172.19.0.1/16" />
</apPluginPolContr>
```

ここで、172.19.0.1/16 は Docker ブリッジの新しいサブネットです。これにより、Docker ブリッジの IP アドレスが 172.19.0.0/16 CIDR に移動するので、172.17.0.0/16 CIDR で構成されている Cisco Cloud Network Controller のインフラ VPC サブネットとの競合がなくなります。

以前と同じコマンドを使用して、競合がなくなったことを確認できます。

```
[root@ACI-Cloud-Fabric-1 ~]# route -n
Kernel IP routing table
Destination      Gateway          Genmask          Flags Metric Ref    Use Iface
0.0.0.0          172.17.0.17     0.0.0.0          UG    16     0      0 oobmgmt
169.254.169.0    0.0.0.0         255.255.255.0    U     0     0      0 bond0
169.254.254.0    0.0.0.0         255.255.255.0    U     0     0      0 lxcbr0
172.17.0.12      0.0.0.0         255.255.255.252 U     0     0      0 bond0
172.17.0.16      0.0.0.0         255.255.255.240 U     0     0      0 oobmgmt
172.19.0.0      0.0.0.0         255.255.0.0      U     0     0      0 docker0
```

この出力例では、強調表示されたテキストは、Docker ブリッジが IP アドレス 172.19.0.0 で構成されていることを示しています。Cisco Cloud Network Controller のインフラ VPC サブネットに使用している 172.17.0.0/16 CIDR との重複がないため、CCR との接続に問題はありません。

```
[root@ACI-Cloud-Fabric-1 ~]# ping 172.17.0.84
PING 172.17.0.84 (172.17.0.84) 56(84) bytes of data.
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=1 ttl=255 time=1.15 ms
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=2 ttl=255 time=1.01 ms
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=3 ttl=255 time=1.03 ms
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=4 ttl=255 time=1.03 ms
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=5 ttl=255 time=1.09 ms
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=6 ttl=255 time=1.06 ms
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=7 ttl=255 time=1.03 ms
64 bytes from 172.17.0.84: icmp_seq=8 ttl=255 time=1.05 ms
^C
--- 172.17.0.84 ping statistics ---
8 packets transmitted, 8 received, 0% packet loss, time 7005ms
rtt min/avg/max/mdev = 1.014/1.061/1.153/0.046 ms
[root@ACI-Cloud-Fabric-1 ~]#
```

ユーザテナントの AWS アカウントのセットアップ

次のいずれかの方法を使用して、ユーザテナントの AWS アカウントを設定できます。

- Cisco Cloud Network Controller のユーザテナントが信頼されている場合は、CFT を使用します。CFT を使用した、信頼済みユーザテナントのための AWS アカウントのセットアップ (8 ページ) を参照してください。
- Cisco Cloud Network Controller のユーザテナントが信頼されていない場合は、AWS アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用します。AWS アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して、信頼されていないユーザテナントの AWS アカウントをセットアップする (10 ページ) を参照してください。

- ここでは、Cisco Cloud Network Controller を使用して AWS 組織アカウントのポリシーを管理できます。「[組織のユーザテナントのAWSアカウントのセットアップ \(12 ページ\)](#)」を参照してください。

CFT を使用した、信頼済みユーザ テナントのための AWS アカウントのセットアップ

テナントアカウントでテナントロールクラウド形成テンプレート (CFT) を使用すると、Cisco Cloud Network Controller が展開されるテナントとアカウントの間に信頼関係が確立されます。

テナントロール CFT を使用してユーザテナントの AWS アカウントをセットアップするには、次の手順を使用します。

始める前に

Cisco Cloud Network Controller ユーザー テナントを構成するためのルールと制限は次のとおりです。

- インフラ テナントとユーザ テナントに同じ AWS アカウントを使用することはできません。
- ユーザ テナントごとに 1 つの AWS アカウントが必要です。

ステップ 1 ユーザ テナントの Amazon Web Services アカウントにログインします。

<https://signin.aws.amazon.com/>

(注) ユーザ テナントのインフラ テナント アカウントを使用することはできません。

ステップ 2 画面の上部にある [サービス (Services)] リンクをクリックし、[CloudFormation] リンクをクリックします。

[CloudFormation] 画面が表示されます。

ステップ 3 [スタックの作成 (Create Stack)] ボタンをクリックします。

(注) [スタックの作成 (Create Stack)] ボタンの横にあるドロップダウンリストからオプションを選択しないでください。代わりに、[スタックの作成 (Create Stack)] ボタンを直接クリックします。

[テンプレートの選択 (Select Template)] ページが、[スタックの作成 (Create stack)] ページ内に表示されます。

ステップ 4 ユーザ テナント設定の IAM ロールに使用するテンプレートをどのように選択するかを決定します。

- AWS アカウントからテナント ロール CFT をダウンロードする場合、または cisco.com アカウント (以前の CCO) からダウンロードした場合は、次の手順を実行します。

1. AWS アカウントからテナント ロール CFT をダウンロードする場合は、テナント ロール CFT を見つけます。テナントロール CFT は、Cisco Cloud Network Controller インフラ テナントの AWS アカウントの S3 バケットにあります。S3 バケットの名前は「capic-common-[CloudNetworkControllerAccountId]-data」で、テナントロールの CFT オブジェクトはそのバケット内の tenant-cft.json です。CloudNetworkControllerAccountId は、Cisco Cloud Network Controller インフラ テナントの AWS アカウント番号です。これは、Cisco Cloud Network Controller が展開されているアカウントです。
 2. テナント ロール CFT をコンピュータ上の場所にダウンロードします。
セキュリティ上の理由から、AWS でのこの S3 バケットへのパブリック アクセスは許可されていないため、このファイルをダウンロードしてテナントアカウントで使用する必要があります。
 3. AWS で、[テンプレートの選択 (Choose a template)] 領域で、[テンプレートを Amazon S3 にアップロード (Upload a Template to Amazon S3)] の横にある円をクリックし、[ファイルの選択 (Choose File)] ボタンをクリックします。
 4. Cisco から受け取った JSON 形式のテナント ロール CFT (たとえば、tenant-cft.json) を保存したコンピュータ上の場所に移動し、そのテンプレートファイルを選択します。
- Cisco からのテナントロール CFT URL を指定した場合は、[テンプレートの選択 (Choose a template)] 領域で、**Amazon S3 テンプレートの URL を指定 (Specify an Amazon S3 template URL)** の横にある円をクリックし、Cisco から受け取ったテナントロールの CFT URL をテキストの下のフィールドに入力します。

ステップ 5 画面の下部にある[次へ (Next)] をクリックします。

[詳細の指定 (Specify Details)] ページが、[スタックの作成 (Create stack)] ページ内に表示されます。

ステップ 6 [詳細の指定 (Specify Details)] ページに、以下の情報を入力します。

- [スタック名 (Stack name):] ユーザ テナント設定のためのこの IAM ロールの名前を入力します (たとえば IAM-Role)。
- [infraAccountId:] このフィールドが表示された場合は、[AWS での Cisco Cloud Network Controller の展開 \(1 ページ\)](#) の説明に従って、インフラ テナントの AWS アカウントを入力します。

このフィールドは、cisco.com アカウントからテナント ロール CFT をダウンロードして使用した場合に表示されることに注意してください。AWS アカウントからテナント ロール CFT をダウンロードして使用した場合は表示されません。これは、インフラ AWS アカウントの S3 バケットからダウンロードした場合には、この infraAccountID 情報が CFT にあらかじめ入力されているためです。

ステップ 7 画面の下部にある [次へ (Next)] をクリックします。

[オプション (Option)] ページが、[スタックの作成 (Create stack)] ページ内に表示されます。

ステップ 8 適切であれば、[オプション (Options)] 画面ですべてのデフォルト値を受け入れ、画面の下部にある [次へ (Next)] をクリックします。

[レビュー (Review)] ページが、[スタックの作成 (Create stack)] ページ内に表示されます。

ステップ 9 [レビュー (Review)] ページで、[AWS cloudformation がカスタムの名前を持つ IAM リソースを作成することを認める (I acknowledge that AWS CloudFormation might create IAM resources with custom names)] の横にあるボックスをオンにし、ページの下部にある [作成 (create)] ボタンをクリックします。

[Cloudformation] ページが再び表示され、作成した Cisco Cloud Network Controller テンプレートが [ステータス (Status)] 列に **CREATE_IN_PROGRESS** というテキストとともに表示されます。

システムは、テンプレートに指定された情報を使用して、ユーザテナントの IAM ロールを作成するようになりました。プロセスが完了するのに 5 ~ 10 分かかります。作成プロセスの進行状況をモニタするには、テンプレートの名前横にあるボックスをオンにし、[イベント (Events)] タブをクリックします。[イベント (Events)] タブの下の [ステータス (Status)] 列には、**CREATE_IN_PROGRESS** というテキストが表示されます。

CREATE_COMPLETE は、プロセスが完了したときに表示されます。

ステップ 10 **CREATE_COMPLETE** が表示されたら、適切な領域に移動して、ユーザテナントの IAM ロールが正常に作成されたことを確認します。

- a) 画面の上部にある [サービス (Services)] リンクをクリックし、**IAM** リンクをクリックします。
- b) [ロール (Roles)] をクリックします。

Apictenantrole という名前のエントリがロール名の下に表示されます。

次のタスク

セットアップ ウィザードを使用した [Cisco Cloud Network Controller の構成](#) に移動して、Cisco Cloud Network Controller のセットアップを続行します。

AWS アクセス キー ID とシークレット アクセス キーを使用して、信頼されていないユーザ テナントの AWS アカウントをセットアップする

AWS アクセス キー ID とシークレットアクセス キーを使用して信頼できないユーザの AWS アカウントを設定する場合は、次の手順を使用します。この場合、信頼されていないユーザのテナントの AWS アカウントを手動で設定し、AWS IAM を使用して適切な権限を割り当てます。

始める前に

Cisco Cloud Network Controller ユーザ テナントを構成するためのルールと制限は次のとおりです。

- インフラ テナントとユーザ テナントに同じ AWS アカウントを使用することはできません。
- ユーザ テナントごとに 1 つの AWS アカウントが必要です。

ステップ 1 ユーザ テナントの Amazon Web Services アカウントにログインします。

<https://signin.aws.amazon.com/>

(注) ユーザテナントのインフラテナントアカウントを使用することはできません。

ステップ 2 AWS 管理コンソールに進みます。

<https://console.aws.amazon.com/>

ステップ 3 画面の一番上の [サービス] リンクをクリックし、IAM リンクをクリックします。

ステップ 4 左側のペインで、[ユーザ] をクリックし、[ユーザの追加] ボタンをクリックします。

[ユーザの追加] ページが表示されます。

ステップ 5 [ユーザ名] フィールドに、user1 などの AWS ユーザアカウントの固有の名前を入力します。

ステップ 6 [アクセス タイプ] フィールドで、プログラムによるアクセスをオンにします。

ステップ 7 ページの下部にある [新規 (New)] ボタンをクリックします。

ステップ 8 [アクセス許可の設定 (Set permissions)] エリアで、[既存のポリシーのアタッチ (Attach existing policies)] を直接選択します。

画面が展開され、フィルタ ポリシー情報が表示されます。

ステップ 9 [管理者アクセス (Administrator Access)] の横にあるボックスをオンにし、ページの下部にある [Next: Tags] ボタンをクリックします。

ステップ 10 [タグの追加 (Add tags)] ページの情報をそのままにして、ページの下部にある [確認 (Review)] ボタンをクリックします。

ステップ 11 ページ下部にある [ユーザの作成 (Create User)] ボタンをクリックします。

警告が表示される場合は、[このユーザに権限がない]ことを示す警告を無視します。

この時点で、アクセス キーが作成されます。

ステップ 12 この AWS アカウントのアクセス キー ID とシークレット アクセス キーの情報をメモしておきます。

- ユーザテナントのアクセス キー ID とシークレット アクセス キー情報を、[CCR およびテナント情報の検索](#)の適切な行にコピーします。
- .csv ファイルをダウンロードするか、または [アクセス キー ID] フィールドと [シークレット アクセス キー] フィールドからファイルに情報をコピーします。

ステップ 13 ページ下部にある [閉じる (Close)] ボタンをクリックします。

ステップ 14 必要に応じて、このトピックの手順を追加のユーザアカウントに対して繰り返します。

次のタスク

セットアップウィザードを使用した [Cisco Cloud Network Controller の構成](#) に移動して、Cisco Cloud Network Controller のセットアップを続行します。

組織のユーザ テナントの AWS アカウントのセットアップ

[AWS Organizations](#) と [組織のユーザ テナントのサポート](#) で説明されているように、Cisco Cloud Network Controller を介して AWS Organization アカウントのポリシーを管理できます。

組織テナントの AWS アカウントを設定するには、この機能を使用するために次の設定が必要です。

- Cisco Cloud Network Controller は、マスター アカウントに導入する必要があります。このドキュメントで前述したように、Cisco Cloud Network Controller を AWS に展開するときには、[AWS での Cisco Cloud Network Controller の展開 \(1 ページ\)](#) に記載されている手順に従って、この AWS 組織のマスターアカウントに Cisco Cloud Network Controller (Cisco Cloud Network Controller インフラ テナント) を導入したことを確認します。
- このドキュメントで後述するように、[共有テナントの設定](#) で説明されている手順に従って、Cisco Cloud Network Controller GUI を介してテナントに組織タグを割り当てます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。